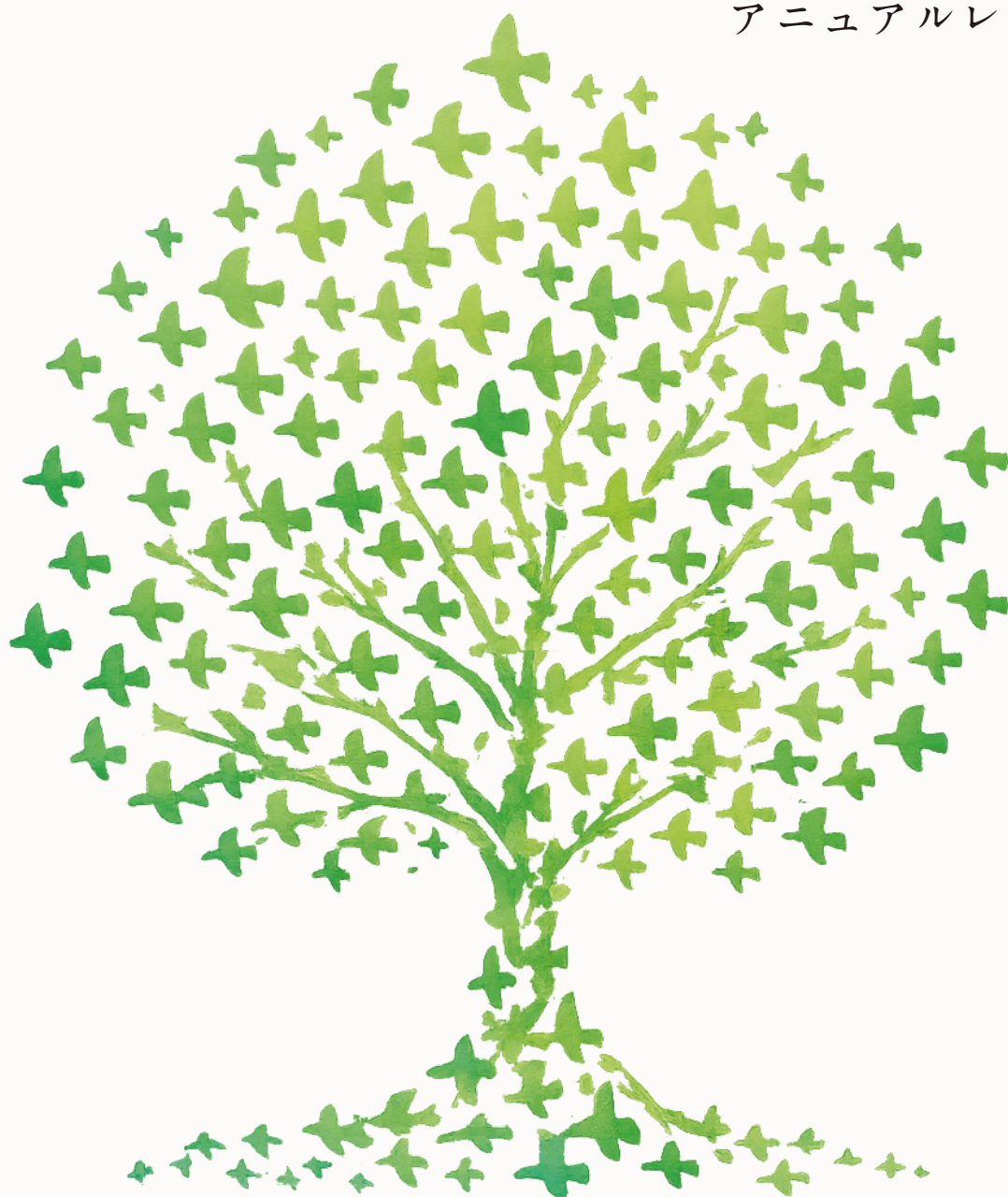


A n n u a l R e p o r t 2025

なんとかしたいを、ともに。

アニュアルレポート



社会福祉法人

朝日新聞厚生文化事業団

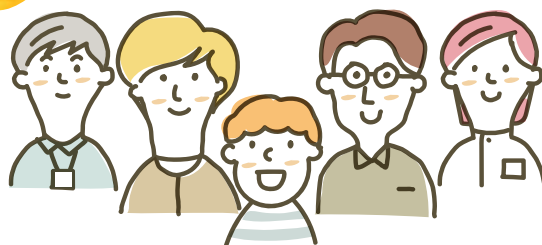
なんとかしたいを、ともに。

私たちは、子どもや高齢者、障がいがある人、災害など様々な分野において、時代に合った社会福祉事業に取り組んでいます。これらの活動は、皆さまからのご寄付やご支援と、「なんとかしたい」という思いに支えられています。これからも福祉事業を通して、皆さまのあたたかい思いを苦しい状況にある人々に届けます。この支え合いがさらに広まり、だれもが安心して暮らせる社会を実現したいと願っています。

朝日新聞厚生文化事業団の今日の取り組み

困難な環境にある
子どもへの返済不要の
奨学金「こども応援金」

国内の様々な
分野のニーズに応じた
先駆的な社会福祉活動



詳細はホームページを
ご覧ください ▶



実施した事業

地域こどもつなぐ応援金、自立援助ホーム・子どもシェルター未来まなび応援金、児童養護施設・里親家庭等進学応援金、ぴあ応援団（ぴあミーティング、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず、シェアセミナー、全国奨学金団体交流会、「自分を守るお金の知恵」）、にもにもフェス、ぴあラボフォーラム、精神疾患の親に育てられた子どもの立場のピアサポート、「発達障がい」とともに生きる豊かな地域生活応援助成、第42回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト、第45回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会、第34回九州車いすツインバスケットボール選手権大会、障がい児・医療的ケア児の親と就労、障がいのある人の就労支援事業、第44回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展、認知症フレンドリーキッズ授業、高齢者施設訪問事業「ゆうゆうビジット」、災害時大学ボランティアセンター支援、能登半島未来応援金、朝日のあたる家、すくすくの森相談室、自殺予防公開講座、西部朝日福祉助成金、第77回保健文化賞、朝日チャリティー美術展、朝日チャリティー色紙展、第75回チャリティーコンサート「メサイア」、親子で楽しむクリスマスコンサート

「つながり」を届けて—1年間の取り組み

2025年度も、皆さまのご寄付やチャリティー事業の一部をもとに、こども応援金事業の他、様々な社会福祉事業、被災地救援事業などを実施しました。

1

社会的養護のもとで育った子ども・若者のべ491人に
総額4,240万2,725円を支給。

4,240万
2,725
円

2

奨学金事業や講演会、ワークショップ、助成事業など27件の事業を
実施しました。

27 件

3

オンラインや全国各地で実施する講演会やフォーラムなどを通じて、7,931
人(のべ人数)へ福祉の情報や学びの場、つながり合う機会を届けました。

7,931
人

4

美術展などのチャリティー事業に、著名なアーティスト・漫画家・
作家ら256人がご協力くださいました。

256 人

5

多くの皆さまから事業団の福祉活動へのご寄付をいただき
ました。

4,360
件

1 億
6,299 万
4,243 円



始動

様々な困難がありながら、
社会的養育を受けて地域で暮らす高校生の未来を切り拓く

地域こどもつなぐ応援金

経済的搾取、暴力、ヤングケアラー、貧困一。
皆さまからいただいたご寄付を、「地域こどもつなぐ応援金」
(給付型奨学金)として、活用させていただきました。ここでは、
2025年度秋から開始した同応援金を通して見てきた現状を中心にご報告いたします。



困難な状況にいる子ども ～推薦者メッセージより～



暴力から逃れ、夢に向かって一步步
母親からの暴力と経済的搾取を逃れ、自立援助ホームに入所していました。現在は、頼れる親族はなく、アルバイトをしながら自立した生活を送っています。専門学校への進学を望んでいますが、学費をひとりで賄うには限界があります。

(推薦者：自立援助ホーム職員)

子どもの思い

将来はヘアメイクさんになって、自分の手で色んな人を笑顔にするのが夢です。今は接客業で経験を積んだり、プロの方の技術を自分の目で見て行ったりしています。自分でお金を稼ぎ、使い道を計画的に考えて貯金できているので、生活は充実しています。応援金は専門学校へ進学するための準備費用に使いたいです。

(18歳 通信制高校3年生 めぐみ)



祖母との別れを乗り越え、
一人暮らしをしながら夢を追う

育ての親である祖母を亡くし、高校2年生でアパートでの一人暮らしを余儀なくされました。家族がいても頼れない孤独な状況です。生活保護を受給し、あらゆる手続きを一人で行なっています。

(推薦者：児童家庭支援センター職員)

高校卒業資格を得るために授業に懸命に取り組み、卒業後は就職したいです。将来は通関士になりたいので、1日1時間は資格の勉強をしています。実務書類の作成や英語に苦戦していますが、自分の好きなことに有意義な時間を使っていると感じます。応援金は、学校生活に必要な問題集や資格の問題集に使いたいです。

(18歳 全日制高校3年生 かよ)

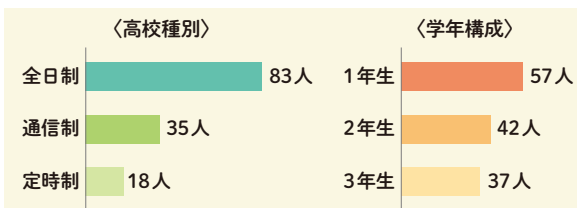


※申込書より抜粋。学年はメッセージ作成時点。今春卒業含む。
※個人情報の保護と読みやすさのため、内容の変わらない範囲で一部編集しています。

給付実績

136人に
総額7,380,000円
(29人への卒業祝金を含む)

支援を届けられた子ども



※3年生の中には、四年制の定時制高校などでさらに1年間に学予定の人が含まれます。

これから

支援を
届けられる子ども



多くの子どもに応援金を
届けるため、引き続きのご支援を
お願いいたします。





2025年度、初めての給付

2008年度から、皆さまに支えていただき、児童養護施設や里親家庭などで育つ子どもたちの進学支援を続けてきました。活動が続ける中で見えてきたのは、厳しい家庭環境の中で生活をしている子どもたちが、地域社会の中に「見えにくい」形で存在しているという現実です。

こうした支援の網の目からこぼれ落ちてしまいやすい子ども・若者たちを支えるため、2025年度より新たに「地域こどもつなぐ応援金」を始動し、136人に総額738万円(29人への卒業祝金を含む)を、各支援機関を通しておくりました。選考の基準は、成績ではなく生活・経済状況です。全国児童家庭支援センター協議会など4つの全国協議会と連携することで、実現しました。

対象：社会的養護(施設や里親家庭など)を経験し家庭に戻った、または家庭で暮らしながら社会的な養育・見守りを特に必要とする20歳未満の高校生。

内容：年間10万円(前後期各5万円)+卒業祝金2万円

使途：学納金、学校生活費、部活動費、その他学びに関する費用

応援金が届ける希望と伴走のカタチ

給付にあたっては、児童家庭支援センターなど、日頃から子どもや家庭に寄り添う「支援機関」からの推薦を必須としています。

経済的な支えにとどまらず、子どもと支援者・地域・関係機関がつながり、伴走を続けられるようにする仕組みです。



言葉の壁がある母を支えながら

母親はフィリピン出身で、行政手続きや書類の読み書きに苦労することがあります。こどもも本人が主体的に家事や事務を担い、母親と支え合っています。同年代と比べて担っている責任は大きく、学習や進路に専念できる環境を社会全体で支えていく必要があります。(推薦者：社会的養護自立支援拠点事業所職員)

将来の夢はアニメーターになり、好きな作品に関わることです。並行してイラストレーターとしても活動したいです。中学校に行けていなかった分、今は学校に行けて友達がいって、部活もバイトもできている毎日がとても充実しています。応援金は専門学校の学費に使いたいです。

(18歳 定時制高校3年生 れいな)



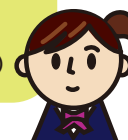
難病の父を支えながら、世界を見据える

病を抱える父と二人での生活で、勉強と家事を両立し学校生活を頑張っています。国際会議の日本代表にも選ばれました。将来、英語を学ぶための学費を貯めようと贅沢を避け、父に負担がかからないようにしています。

(推薦者：児童家庭支援センター 職員)

高校卒業後は大学に進学したり、留学を目指したりしたいです。将来は自分の得意なことを伸ばした職業に就きたいと考えています。普段は学習のほかに、家の手伝いで料理や掃除をしたり、家族と必要なものを買に行ったりしています。自分がしてみたいと思うことを楽しくできているので、今はとても充実しています。応援金は学習に必要な参考書や教科書の購入に使いたいです。

(16歳 全日制高校1年生 なみ)



第1回目の実施を通じて、制度の狭間にいる子どもや家庭の存在があらためて浮き彫りになりました。支援の現場からは、「社会に応援してくれる大人がいると感じられた」「支援者と子どもの関係が深まった」といった声が聞かれ、地域の中での孤立を防ぐセーフティネットとしての手応えも感じています。一方で、まだ支援が届いていない家庭があることも事実です。枠組みの拡大を検討しながら、どのような環境にある子どもでも、自らの可能性を信じて未来へ踏み出せる社会を、皆さまとともに目指していきます。

思いのバトンを受け継ぐ

「たくさん優しくされた人は、優しい人になれると思います」

これは、ご寄付をくださった方からのメッセージです。

皆さまのご支援を受けて大学へ進んだ若者たちが、今度は後輩たちへの支えになろうとしています。2025年4月に発足したぴあ応援団の、1年間の歩みをご報告します。



ぴあ応援団の1年間を振り返って

進学という高い壁

社会的養護(児童養護施設や里親家庭など)で育つ子どもたちにとって、高校卒業後の進学は大きな壁です。2024年には法改正により年齢による支援の上限が撤廃されましたが、実際の支援は施設によっても、地域によっても大きな差があります。進路を考え始める頃、「身近に大学へ進んだ先輩もおらず、自分には無理だ」と夢をあきらめる若者は今もなお少なくありません。そうした子どもたちに、進学という選択肢を届けてきたのが、「児童養護施設・里親家庭等進学応援金」です。

「受け取った思いを、次の世代へ」

支援を受けて大学や専門学校へ進んだ若者たちは、「寄付してくださった方々の思いを乗せた大切なお金で勉強している」という実感を胸に、それぞれの夢へと歩みを進めてきました。その若者たちが、同じ境遇で育つ後輩に役立とうと、2025年4月に「ぴあ応援団」を発足させました。約60人のメンバーが集い、互いに支え合いながら活動を続けています。

当事者が、当事者に寄り添う

進路の話、お金の不安、一人暮らしへの戸惑い——施設や里親家庭で暮らしている中高生のもとを訪れ、向きあう活動では、同じ道を歩いてきた先輩として、正直な言葉で語りかけます。「自分だけが悩んでいるのではないと安心した」。参加した中高生からそんな声が聞かれました。施設の外では話にくいことも、「ぴあ(仲間)」だからこそ安心して打ち明けられる。自分たちが経験してきた孤独や不安を、後輩たちには感じてほしくない。そういう思いが、活動の根っこにあります。活動に共感した仲間が少しずつ加わり、一緒に活動することで、「社会的養護の輪」※はいまも広がり続けています。



※家庭で暮らせない子どもを公的に支える制度(社会的養護)を超え、当事者や思いを寄せてくださるすべての人が手をつなぎ、社会全体で子どもを包み込む「大きな輪」。その「輪」こそ、子どもたちが安心して羽ばたける未来を創り出すと考えています。

幸せのバトンをつないで

かつて応援金で看護学校、そして大学へと進んださくらさん(仮名)は今、養護教諭として子どもたちのそばで働いています。施設で育ち、奨学金と出会ったことで夢へと踏み出すことができた一人です。「名前も顔も知らない私のために寄付してくれた皆さんへ。受け取った思いを次の世代へとつないでいくことが、私たちからの恩返しです」。その言葉は、ぴあ応援団のメンバーの多くに共通する思いでもあります。

皆さまの温かいご支援が、若者たちの学びを支え、その若者たちがまた次の誰かを支える——そのバトンが、今まさに受け継がれています。引き続き、ぴあ応援団の歩みを温かく見守っていただけますと幸いです。



1年間の主な活動

ぴあ応援ブック
発行年3回・
約900か所に送付、
追加希望を受け
1,102部を追加送付

ぴあ応援ラジオ
(YouTube)
年間12本公開

セミナー開催
東京、栃木、横浜、仙台、
名古屋など6件。
社会的養護で暮らす
中高生や養育者などが対象

全国奨学金団体交流会
15団体・33名が参加、
奨学金団体に連携を呼びかけ、
若者支援をともに考える場に

大学ボランティアセンター 能登半島被災地支援

2025年11月、12月に高崎健康福祉大学の学生ボランティア10人が石川県穴水町を訪れました。11月には「児童ホームあだぶと」の子どもたちと津幡町の「もりのひみつきち」へ遠足へ。学生たちが寄り添いながら外出を支えました。12月には、MAGIC CLUBの学生がマジックと大道芸を携えて穴水町へ。下唐川地区の集会所、あすなろ学園(児童養護施設)のクリスマス会、平和こども園と3か所を巡り、幼児から高齢者まで延べ約90人と交流しました。発災から時が経っても、能登とのつながりを紡いでまいります。



活動実績

活動場所(石川県穴水町)※は参加者数

児童ホームあだぶと(放課後等デイサービス)※子ども2人、放デイ職員4人
下唐川地区集会所 ※地区のみなさん約25人
あすなろ学園(児童養護施設)※子どもと職員約25人
平和こども園(幼保連携型認定こども園) ※子どもと職員約40人

能登の復興を願い、漆芸の技術と若手を支える

2025年3月、私たちは能登半島地震で被災した石川県立輪島漆芸技術研修所へ、2085万円の応援金をお届けしました。伝統技術を志す若手研修生を支えることが、地域の誇りである文化を次世代へつなぐと考えてのことです。

その応援金を活かし、研修所ではさまざまな取り組みが実を結んでいます。香川県漆芸研究所との技術交流には研修生32人と講師・職員15人が参加し、県外での学びを深めました。地震で失われた道具の補充も進んでいます。さらに、研修生が地元の子どもたちに漆芸を教える体験会を3回開催し、延べ150人が参加しました。技術を「伝える喜び」が、地域との新たな絆を育んでいます。

復興への道のりはまだ続きます。これからも皆さまと共に、被災地の未来を支えてまいります。



制作体験会に参加した小学生の様子

活動実績

制作体験会を3回開催
150人が参加

〈県外研修〉
香川県漆芸研究所との
交流会を開催
研修生32人、講師・
職員15人が香川県に訪問

精神障がいのある人も家族も 誰もが安心して自分らしく暮らせる地域へ

皆さまのご支援で、2025年度は二つの取り組みを進めました。一つは大阪府高槻市で開催した「にもにもフェス」。障がいの有無にかかわらず誰もが暮らしやすい地域のあり方を考える場に、延べ約400人が集いました。もう一つは「びあラボフォーラム」。似た経験を持つ仲間同士がつながり、支え合う「ピアサポート」の場づくりを探求しました。「しんどい」と言える場所を、一緒につくりたい」という思いが、全国の参加者をつなぎました。一人ひとりの小さな「声」を拾い上げ続けること——その積み重ねが「ここにいていい」と思える社会につながればと願っています。



参加した皆さんとの交流トークで意見交換の様子
(大阪府高槻市・にもにもフェス)

活動実績

「にもにもフェス」を開催
延べ参加者 約400人

「びあラボフォーラム」の開催と報告書発行
ピアサポート団体がつながり学び合える場を
オンラインで開催したほか、活動やピアサポートへの
考えをまとめた報告書「ピアを探求」を作成



Student Message

部活動では陸上部で走り、工業高校では計算技術検定4級の資格を取得しました。スマートフォンの利用料金を稼ぐためにカレー屋さんでアルバイトをしています。学校との両立が大変です。部活動では、地区大会出場に向けて日々のトレーニングを欠かさないようにしたいです。

ともや・18歳 高校1年生



高校生活で心がけていることは、自分の気持ちを大切に、人に流されずに行動できるようにすることです。今まで、友達に頼まれたことを断り切れずに引き受けてしまい、自分の時間が無くなったり、やりたいことを後回しにしたりすることがありました。学校行事や友達とのかかわりを通じて、必要な時には断る判断力を身につけていきたいです。

ゆりこ・17歳 高校3年生



自立援助ホーム ホーム長より

本人は将来、児童相談所に就労したいという希望があります。いろいろな背景のある子どもたちと出会う職場であることを理解したうえでのことだそうです。相手の価値観によって、考え方や関わり方が変わることも伝えていきたいです。

この応援金に申し込むために本人が記載、準備した書類を読むと、深く考えること、自分の想いを表出することができるようになってきたと感じました。助言や伴走のみならず、見守り、手放す支援もしていきたいと思います。

生育環境の影響もあり、メンタル面での落ち込みもある中、現実を見ることができるようになってきました。自立に向けた貯金を頑張りたい中、メンタル面や学校の課題をこなすことから、バイトの回数をあまり増やせず、買いたいものや必要なものが買えない現実があります。買い物に行っても割引されているものを購入するなど、本人なりの努力をしています。

入所前は引きこもり状態だったようです。ホームへの入所をきっかけに生活スタイルを正すという本人の言葉通り、規則正しい生活を実践しています。アルバイトにも積極的に取り組み、アルバイト先でも認められているようです。高校の転入時期の関係で、卒業年度が1年遅れてしまう見込みのため、本人のやる気が途切れないよう、声掛け、見守りをし、確実に卒業できるように支援していきます。

本人は看護師を目指し、日々努力しています。進学のための入学金までは自身がアルバイトで貯めました。その貯金を崩さずに受験を乗り切れるよう、この応援金でご支援いただければと考えています。

1人でも多くの子どもの幸せでありますように！

大阪府 Aさん

思う存分学んでください！

熊本県 Yさん

日本の子どもが、皆な幸せに暮らせるよう微力ながら応援しています。

福井県 Bさん

厳しい時間は長い人生のうち少ない時間です。貴方には若さという宝があります。努力しましょう！！

神奈川県 Tさん

Student Message

生まれ育った地を離れて高校に復学しました。最初は友人もおらずさみしい思いをしましたが、ホームの職員の皆さんの後押しで高校に通えるようになり、友達もでき、充実した毎日を送っています。将来は自分と同じような境遇の子どもたちの力になりたいです。

りき・16歳 高校1年生



私は消防士を目指しています。そのため、高校卒業はもちろん、公務員試験の勉強もしなくてはならないと考えています。ホームの職員さんと一緒に、消防士になるための方法を考えたいです。

らん・18歳 高校2年生



自立援助ホーム ホーム長より

高校3年生になり、進学を希望している短期大学のオープンキャンパスに参加してきました。調理実習や、新米と備蓄米を使用して各米の水分・糖度を測定する実験などに真剣に取り組んでいます。栄養士と家庭科教員免許の取得ができるよう、応援しています。

所持金ゼロでホームに入所してきましたが、努力を重ね、アルバイト就労と高校への進学を決めました。これらの決断を自分自身で行ったことで、自分の人生は自分の意志で決めることができると実感したようです。これからも資格取得など、前向きな挑戦を応援していきたいです。

今までの生活で、なかなか新しい挑戦をする経験がありませんでした。そのため、新しい挑戦に対する不安がすごく強いです。何かをやりたいと思えた時、そのための資金があると安心の土台となります。未来への不安が少しでも和らぐよう、一つ一つの不安に丁寧に向き合い、背中を押してあげられるよう応援続けます。

卒業後は韓国に留学するという強い意志を持って、ホーム入居後も目標に向けて取り組んでいます。留学に必要な、高校による奨学金の推薦をとれるよう勉強に励み、学内外の活動にも一生懸命取り組んでいます。

支援者 Message

全ての子ども達に豊かな恵みが与えられますようお祈りしています。少額ですが、そんな願いを込めて応援させていただきます。

福岡県 Sさん

大人になった未来、きっといいことがある！

岐阜県 Fさん

将来のご活躍を期待しています。

岐阜県 Hさん

優しくされると優しい人になれると思っています。
優しい大人が増えることを願っています。

神奈川県 Aさん

頑張ってください！

前向きに生きて幸せをつかんでください

長崎県 Hさん

みなさんが笑顔で過ごせる事を祈っています。
目標とする自分になれるように頑張ってください！

神奈川県 Mさん

夢を持って一歩ずつ。心から応援しています！

東京都 Hさん

今は大変でも、多くの方が応援しているので頑張ってください。

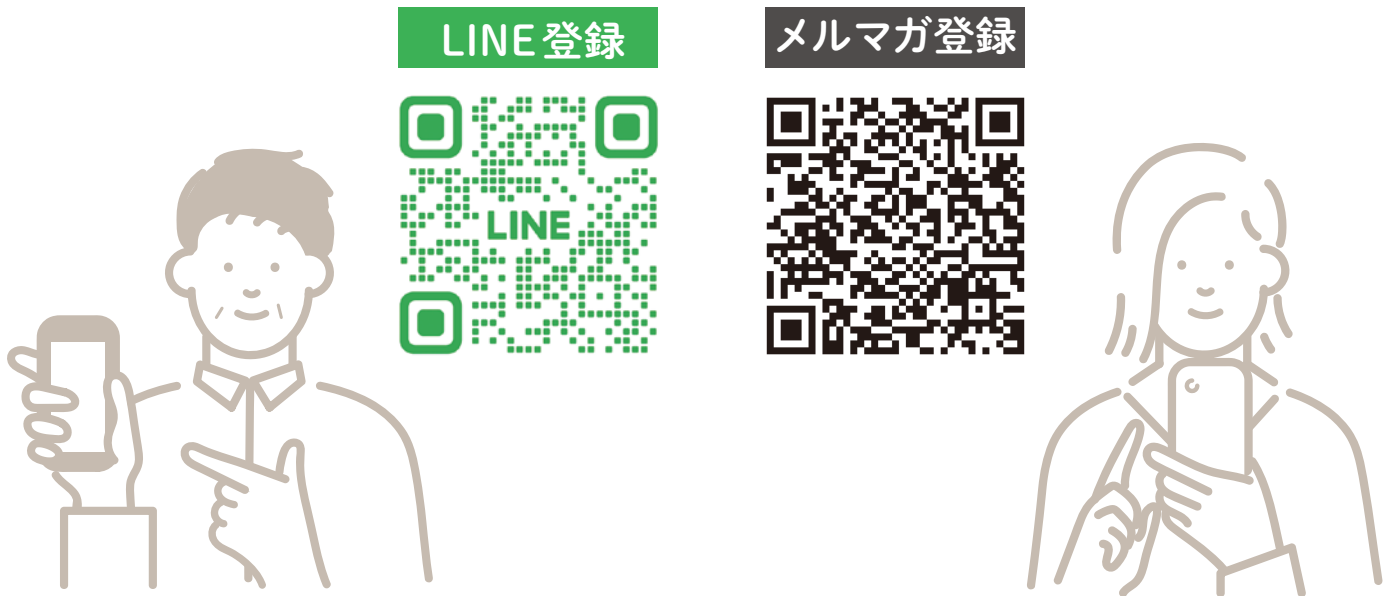
大阪府 Mさん

LINE・メルマガ登録のおねがい

最新の活動やお知らせを配信します。

ぜひ登録をお願いします。

(スマートフォンでスキャン)



財務報告

2025年度の収支

収入（円）				支出（円）			
事業収益	高齢者福祉事業	9,200	54,040,860	事業費用	高齢者福祉事業	21,794,921	147,015,365
	児童福祉事業	1,000,000			児童福祉事業	62,573,175	
	障害者福祉サービス等事業	0			障害者福祉サービス等事業	29,932,338	
	医療と公衆衛生事業	0			医療と公衆衛生事業	899,690	
	福祉啓発推進事業	0			福祉啓発推進事業	532,553	
	朝日ガイド事業	1,104,849			朝日ガイド事業	565,112	
	チャリティー事業	51,926,811			チャリティー事業	30,717,576	
	雑収入				28,728	人件費・事務費・減価償却費等	
経常経費寄付金収益		162,994,243					
受取利息配当金収益		3,747,623					
合計		220,811,454	合計		365,118,792		
経常増減差額（円）				△144,307,338			

これからもみなさまとともに。



アニュアルレポート2025

2026年6月発行

発行者：社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

住所：東京都中央区築地5-3-2

この冊子は、過去にご寄付をくださった方などへお送りしています。送付停止や住所変更、同一ご住所で1通のご案内をご希望の方は、お手数ですが下記専用ダイヤルへご連絡ください。ホームページの専用フォーム（右のQRコード参照）からもお手続きいただけます。



TEL 0120-600-668 平日：10:00～17:00 祝日・年末年始（12月28日～1月4日）除く